



Obituary about Dr. M. Ishitsuka in a Japanese astronomy magazine (August of 2018 edition).

Thanks to Dr Uozumi for bringing this to the attention of the ISWI Newsletter.

- The Editor, 25-JULY-2018.

## 天文台マダムがゆく

梅本真由美

### その35 追悼・ペルー天文学の父 石塚睦先生を偲んで



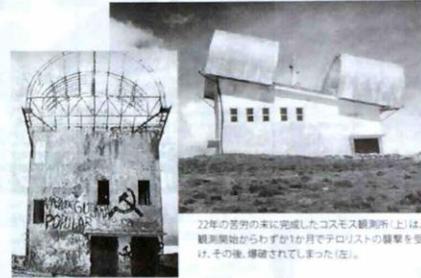
いまから60年前にペルーへ渡り、生涯をかけてペルーの天文学の発展に尽力された日本人天文学者・石塚睦（むつみ）先生が6月9日に88歳で永眠されました。

石塚先生は、1930年1月生まれ。京都大学で博士号取得後、アンデス山中に太陽コロナの観測施設をつくるため、家族とともにペルーへ渡りました。1957年のことです。水源も電力も材料もない状態から観測所づくりをスタートし、22年に及ぶ苦勞の末に「コスモス太陽コロナ観測所」を完成させました。ところが、観測開始からわずか1か月後に悲劇に見舞われます。反政府テロ組織が観測所を占拠し、夜間のテロ活動に使う狙いで、天体観測用の赤外線観測装置を差し出すよう石塚先生に要求してきたのです。もちろん先生の答えは「NO」。キッパリと要求を拒否した報復として、観測所は爆破されてしまいました。その後、石塚先生はテロ組織から殺害予告を受け、潜伏生活を余儀なくされたこともあります。しかしそれでもペルーにとどまり、ペルーに天文学を根付かせるため、次世代の教育・育成に必要な数々の計画を進め、生涯をかけてペルーで天文学の普及啓発に努めてきたのです。

「日本に帰るといふ選択肢もあったと思います。なぜそこまでしてペルーにとどまり続けたのですか」

この疑問を私は直接、石塚先生にお聞きしたことがあります。先生は「男が一度やると決めたことはやり通す。もう意地ですよ、意地。男の意地なんです」と、朗らかな笑顔で答えてくださいました。

やると決めたことはやる。途中で投げ出さない。たとえどんなに困難な道でも決してあきらめない。そんな石塚先生のことを私が知ったのは、2005年ごろのことでした。石塚先生の次男ホセ・イシツカさんは、父と同じ道を歩むべく電波天文学者となり、当時、私の夫の同僚でした。ホセさんから石塚先生の話聞いて心を打たれ、そのご縁もあって私は2007年から「ペルーの電波望遠鏡を支援する会」の公式ホームページを作成しています。



首都リマにあるペルーで唯一の国立プラネタリウムには石塚睦先生の名前が冠されている。プラネタリウムは五善光学研究所製で座席数は40、ドーム径は7.5m。日本政府のODAによって建設された。左が石塚睦先生、右は次男のホセ・イシツカさん。

今年の初めに石塚睦先生から届いた年賀状（クリスマスカード）には、ペルー国立イカ大学の天文観測施設がデザインされていた。石塚先生の60年間の活動の成果だ。

今年に入ってから、石塚先生とホセさん親子の壮大な歩みを見聞向けの伝記として書籍化する仕事を進めており、メールのやり取りを続けていたところでした。先生の文面は美しい文語的な言葉づかいで、ユーモアもたくさん散りばめられており、4月中はとてもお元気な様子でした。しばらくメールが途絶えていたので心配していたところ、ホセさんから病院の集中治療室に入院したと連絡をもらいました。どうか助かって欲しい。どうか……私が頼みにしている地元神社に手を合わせて強く祈りましたが、それから2日後に訃報が届きました。本当に寂しいです。パソコンを開いてメールの履歴を見ていると、今にも天国からメールが届いて、真由美さん、と呼びかけてくれるような気がしてなりません。いままで先生のことを知らなかった方も、このページをきっかけにぜひ関心を持っていただけると幸いです。そしてこの場をお借りして読者の皆さんに、石塚睦先生、ホセ・イシツカさんの活動へのご支援・ご協力を呼びかけたいと思います。心より石塚睦先生のご冥福をお祈りいたします。感謝をこめて。

Information 石塚睦博士について  
ペルーの電波望遠鏡を支援する会  
冒頭にある動画（2007年制作）をぜひご覧ください。  
<http://www.peru32m-telescope.net>



マダムをフォロー♪ 感想やおいしいネタはこちらまで → @TenmondaiMadam

月刊星ナビ 2018年8月号 73